決められない女

かめれおん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
決められない女

【Ｎコード】
Ｎ７３６４Ｌ

【作者名】
かめれおん

【あらすじ】
残酷描写ってほどでもないですが。念のため。

世の中にはいつも誰かに意見を聞いたり指示を待つだけの人間がいる。
何も決められない人が。
私もその一人だった。何も一人では決められない女。

昨日初めて一人で決めた事があった。
それは、その時に発した言葉は、

「・・・死んで、一緒に」

目が覚めたら
血まみれの私が冷たい床に倒れていた。
体が痛い。でも床に寝てて体が強張っているという痛さだった。
右手にはナイフを持っている。
刺されたのは、私じゃない。
この血は、私のじゃない。
ゆっくり起き上がって足元を見ると
彼が血まみれで倒れていた。
彼を刺した後、私は気絶したのだろうか？
頭が痛い。

私が、刺したのだろうか？

そのあと、私は血まみれの体と手を洗うためにシャワーを浴びた。
頭の先から足の先まで、昨日の出来事もすべて洗い流すかのように。
身に着けていた衣服をゴミ袋に入れ
彼の家にある衣服を身に着けた。
ナイフは指紋を丁寧にふき取り、部屋においていった。
右手にはごみ袋、左手にはこの部屋の鍵を持ち部屋を出て鍵をしめた。
鍵はポケットに入れておく。
まるで夢の中のようだ。
恐れも震えもなくどこか人事のような冷静さを感じる。
もう、彼は居ないというのに。
この世界のどこにも。

深夜に人はおらず、誰に見られることもなく
家路につくことが出来た。
部屋の鍵はなぜか開いており、入ると電気がついていた。
「・・・省吾！？」
居るはずのない彼の名前を呼んだ。
「・・・」
誰も居ない。
部屋が荒らされているわけでもない。
なのに、自分の部屋じゃないような感覚がする。
彼の血のついた服が入った袋をその辺りに置いて電気を消しベッドへもぐった。
目が覚めれば夢も覚める。
彼にまた会える。
そう願って、ゆっくり眠りにおちた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7364l/

決められない女

2010年10月20日09時18分発行